

科学ファンタジーの世界へようこそ ～家にある液体や白い粉の不思議～

3月26日、土曜日。沓名先生をお呼びしてスペシャルサイエンスショーを実施しました。先生は安城で長く理科の先生をされ、今は光ヶ丘高校の化学の先生です。サイエンスショーが大好きで、「おもしろ科学実験キャラバン隊」の一員として、県内広く活躍されています。



ステージ正面には、二つの実験機にペットボトルやメスシリンダー、フラスコなどが所狭しと並べられ、白い粉や透明な色水がスポットライトにキラキラと輝いています。その舞台上に沓名先生が白衣姿で、そして満面の笑顔で登場です。子どもたちは開始と同時に、すでにわくわくする科学ファンタジーの世界に誘い込まれてしまいました。

みんなが大好きな花の汁で作る“いろみず遊び”。混ぜ方によって、その水の色がくるくる変化していきます。酸性やアルカリ性の液体です。BTB液で泡のビールにもなりました。ドライアイスとアルコールでかちかちになったトマトにもびっくり。水に落ちてできたイクラも



大人気でした。

ステージ後方の掲示ボードには、「ふしぎ！をみつけ」「なぜ？とつぶやき」「知りたい！と思う」「それが科学です」また「五感+心+行動=?」とありました。身近な物を使って、おもしろいお話で、分かりやすく、科学の世界へ案内していただきました。

北斗と南斗の物語 中国語で星空解説

「中国語 de プラネタリウム」が3月26日(土)に、行われました。

より多くのお客様に見ていただきたいという想いからTIA(国際交流協会)の方に協力していただき、外国語でのプラネタリウムを開催して、今回で3回目になります。

中国語を話される方はもちろん中国語を勉強されている方にも楽しんでもらえるような内容を考えました。まず、午後9時ごろに見える星空を楽しんでいただき、夜中3時の星空に移動し、北の空で輝く北斗七星と南の空で輝く南斗六星を紹介しました。そして、その二つの星にちなんで、中国で古くから伝わる星の物語、「北斗と南斗の物語」を紹介しました。お客さまからは「映像と音楽の融合がとても美しく感動した」「もっと物語を聞きたい」などと感想をいただきました。これからも英語など外国語でのプラネタリウムを計画しています。楽しみにしててくださいね♪



★ 天文トピックス 『火星接近中』

太陽系の惑星で地球のすぐ外側を回る「火星」は、2年2ヶ月ごとに地球との接近を繰り返しています。今回の最接近は、5月31日(火)午前6時34分となり、その距離はおよそ7,500万kmで、明るさは-2等級となります。この時期はまだ太陽系最大の惑星「木星」も-2等級で見えています。同じ明るさのとびっきり明るい星が、「火星」は赤色「木星」は白色と色のちがいで見られます。ぜひこの機会に天体望遠鏡で二つの惑星の表面模様の違いを観察してみてください。



さて今回の接近は、大接近とはいきませんが、大接近に近い「中接近」というところです。次回2年2ヶ月後の2018年7月31日は、本当の大接近となりますので、夏休みの自由研究にもってこいの題材になります。今回は、その予行練習を兼ねて、観察してみてください。

身近なものがおもちゃに変身 紙トンボ、紙風船、びっくり箱など

3月29日(火)サイエンステラス「手作りおもちゃで遊ぼう」を開催し、会場が温かいほのぼのとした雰囲気になりました。教えてくださる「手づくり遊びを楽しむ会」のご高齢のみなさん。そして来館した孫のような子どもたちと娘のような若いママたち。その両者を取り持つのは「手作りおもちゃ」。材料は新聞紙、牛乳パック、輪ゴム、ストローなど、身近にある素朴な物ばかり。それらが楽しい会話とともにみるみる魅力的なおもちゃに変身していきます。紙トンボは天井高く舞い上がり、風船笛は「ブー」とコミカルな音を奏で、割りばし鉄砲から飛び出した輪ゴムは見事に的を倒し、びっくり箱からは長い長いへびが跳ね上がり、パチパチくまさんは軽やかな手拍子を響かせます。そして、「できたあ」「見てみて」「やったあ」「すごいねえ」と会話が弾み、笑顔がつながりました。

「手づくり遊びを楽しむ会」は、豊田市高年大学地域交流学科で共に学び、修了したお仲間が実践活動として立ち上げた、和気あいあいと長く続けていらっしゃる会です。今後も末永く継続活動されるよう応援します。そして、本館にも来年度以降もぜひお呼びしたいと思いました。

